

平成十五年度

修士論文・卒業論文題目

大学院文学研究科

〈歴史学専攻〉

栗島 素直 近世後期における浦方村落の実態

竹本多一郎 小倉藩解体期における軍事問題

井上 誠二 柄鏡形前後円墳の研究 ― 柄鏡形から柄鏡型への分類 ―

尾方 美紀 近世村落における寺院の存在意識 ― 寺院による「入寺」の検討を中心として ―

高 正樹 王朝国家成り立ち期における土地所有証験の変遷

末吉 理恵 大和政権と地方豪族 ― 采女からのアプローチ ―

村上 美帆 遠賀川流域における後期古墳の様相

高 正樹 王制国家成り立ち期における土地所有証験の変遷

末吉 理恵 大和政権と地方豪族 ― 采女からのアプローチ ―

村上 美帆 遠賀川流域における後期古墳の様相

高 正樹 王制国家成り立ち期における土地所有証験の変遷

末吉 理恵 大和政権と地方豪族 ― 采女からのアプローチ ―

村上 美帆 遠賀川流域における後期古墳の様相

高 正樹 王制国家成り立ち期における土地所有証験の変遷

末吉 理恵 大和政権と地方豪族 ― 采女からのアプローチ ―

村上 美帆 遠賀川流域における後期古墳の様相

高 正樹 王制国家成り立ち期における土地所有証験の変遷

末吉 理恵 大和政権と地方豪族 ― 采女からのアプローチ ―

村上 美帆 遠賀川流域における後期古墳の様相

高 正樹 王制国家成り立ち期における土地所有証験の変遷

末吉 理恵 大和政権と地方豪族 ― 采女からのアプローチ ―

村上 美帆 遠賀川流域における後期古墳の様相

高 正樹 王制国家成り立ち期における土地所有証験の変遷

末吉 理恵 大和政権と地方豪族 ― 采女からのアプローチ ―

織田 教雅 建地区の立地に関する研究

北川 貴洋 四国地方を中心とした瀬戸内技法の伝播

古瀬 美鈴 金海式甕棺の再検討

佐藤 真人 諸職における職能神と信仰に関する研究

下森 弘之 荘園村落調査を中心に見る西遷

鈴木 隆敏 御家人の活動と村落景観について ― 薩摩国島津荘入来院を中心として ―

松浦 憲治 心 ― 薩摩国島津荘入来院を中心として ―

松尾 秀昭 現出と展開

村田 梨絵 横穴式石室にみる地域間交流

村田 梨絵 一肥前東部(佐賀県)を中心として ―

村田 梨絵 ケルト民族における生死観の比較文化的研究

史学科

〈日本史専攻〉

鹿島 清司 太平洋戦争はなぜ回避できなかったのか ― その背景と世界情勢 ―

矢島 玄秀 大分の空襲

北原 康寛 熊野の歴史と信仰

上田 浩幸 福沢諭吉の研究

足立友里江 江戸幕末の髪型と髪飾り

阿南 千春 性風俗の歴史

安部かおり 特攻隊の歴史

荒尾 裕治 ロンドン海軍軍縮条約に対する議会の対応

井口 尚子 天照大神と大日 貴の違いについて

池田 寛恵 奇祭「ケベス祭り」に関する一考察

石田 和也 豆田町街並み保存の研究

井手 貴康 大刀洗飛行場の研究

岩男 章子 関東大震災復興史

上升 康弘 執権体制の展開

内山 美沙 神風連の乱の研究

江上 直也 門司が栄えていた頃

江崎 沙織 『行脚僧雑録』から見る島津氏の家臣団の構成

江崎 沙織 『行脚僧雑録』から見る島津氏の家臣団の構成

江崎 沙織 『行脚僧雑録』から見る島津氏の家臣団の構成

江崎 沙織 『行脚僧雑録』から見る島津氏の家臣団の構成

江崎 沙織 『行脚僧雑録』から見る島津氏の家臣団の構成

江崎 沙織 『行脚僧雑録』から見る島津氏の家臣団の構成

江崎 沙織 『行脚僧雑録』から見る島津氏の家臣団の構成

江崎 沙織 『行脚僧雑録』から見る島津氏の家臣団の構成

江崎 沙織 『行脚僧雑録』から見る島津氏の家臣団の構成

江崎 沙織 『行脚僧雑録』から見る島津氏の家臣団の構成

江崎 沙織 『行脚僧雑録』から見る島津氏の家臣団の構成

- 大上 大輔 広田弘毅の研究
- 大西 舞子 奈良時代から平安時代にかけての制服の変化
- 加川 弥亜 安芸の厳島と平氏一門の栄華
- 笠岡 総一 中世の博奕―鎌倉期を中心に―
- 片野 哲弥 大分の郷土料理
- 金重 嘉宏 福原越後の生涯 ―禁門の変を中心に―
- 河村 喜一 日本海海戦の勝利と東郷平八郎
- 木崎 貴博 織田信長と天皇の関係
- 岸川久美子 藤原広嗣と鏡神社
- 木下 雅博 高木兼寛の研究―明治期の脚氣論争を中心に―
- 北田 直和 教育改革論争―理想の教育と教師―
- 金城 洋平 幕末の写真家 上野彦馬
- 國重 善史 飯塚山笠の研究
- 栗原 智洋 西南戦争について―田原坂の戦いを中心に―
- 小島 浩介 秀吉の野望と名護屋城
- 小中 宏樹 キリスト教が日本に与えた影響を考える ―ザビエル来日から禁教令まで―
- 小林 輝美 婚姻の変遷と現代人の結婚観
- 古林 佑一 別府八湯について
- 小林 裕記 長州の志士たちについて ―吉田松陰を中心に―
- 後藤 慎治 杵築におけるキリシタンとの関わりについて
- 後藤 剛 参勤交代―岡藩を例に―
- 坂本 哲也 筑豊地区の鉄道史
- 佐藤 紘一 近世大庄屋を巡る行政機能
- 佐藤 真吾 宮崎市平和の塔の研究
- 佐藤 壽洋 鎌倉幕府の鎮西支配についての考察
- 佐藤 義隼 今川了俊について
- 小路三寿々 戦時下における三光村
- 重松 佑美 明治初期の宗像大社と民衆思想
- 舌間 誠子 女性自立への道程―大分県における女子就学率を中心に―
- 嶋本 陽介 宮本武蔵の晩年についての考察―五輪書を中心に―
- 高尾 哲郎 浜口雄幸内閣論
- 多賀谷亮太 黒田官兵衛(如水)について
- 竹下 泰輔 西南戦争 ―田原坂を中心に―
- 武田 佳苗 近世における災害の研究
- 疊屋 茂寛 平戸・生月周辺における捕鯨業の盛衰
- 田中 久美 郵便制度全国確立と前島密
- 土山 啓孝 海軍部内における終戦工作
- 中村 潤樹 長崎外海の島々について
- 西 祐理子 ヤマトタケルの考察
- 西山 祐基 トヨタ自動車の歴史
- 納富 正友 戊辰戦争期の長崎―奉行所の行方を中心に―
- 原 浩 物くさ太郎と三年寝太郎―二人の太郎からみる御伽噺―
- 原口裕一郎 乃木希典の教育 ―学習院院長時代を中心に―
- 半田 秀昭 奥州藤原氏の滅亡について
- 坂東 克起 阿波藍流通史 ―大阪・江戸の流通を中心に―
- 檜垣 隆 幕末期における伊予国今治藩の動向
- 平山 真一 日朝国交正常化問題に見る虚構
- 前田 隼司 崇徳院の怨霊伝説 ―故郷に帰れなかつた天狗―
- 枅田 享祐 被爆後の広島市の復興と発展
- 松岡 彩子 第二次世界大戦期の日本とアジアの国際関係 ―従軍慰安婦について―
- 松本 雄輔 長篠合戦における両家の戦術面での考察
- 溝口 智一 高杉晋作と奇兵隊
- 皆川 太郎 島津氏の歴史と島津戦記 ―九

州において―

宮岡 里光 織田信長と本能寺の変について
村山 圭司 戦争記念碑の研究 ―大分市を
中心にして―

用松 史明 豊後大友氏の由来と戦国期の大
友宗麟を中心とした大友一族の
活躍

活躍

百津 康祐 万有愛護の合氣道
森 久美 宇佐の新田開発 ―巖保新田に
ついて―

山口 善信 海軍伏龍特別攻撃隊の研究

山下 勘郎 安土城―天下布武の城―

山下 朋紀 日向高城合戦における諸考察

山本菜々美 福岡県豊前市に伝わる神楽につ
いて

吉浦 仁 肥前国武将・神代勝利について

吉川 和宏 日産自動車と自動車産業を取り
巻く社会・環境の変遷

吉原 智洋 二・二六事件の研究

渡部 真史 廃仏毀釈が浄土真宗に与えた影
響について

金 智銀 日本帝国主義の植民地政策―創
氏改名を中心に―

中井 秀治 別府の竹細工について―生野祥
雲斎を中心に―

野口 正太 立花宗茂について

原田まり子 別府・大分間における陸上交通
網の編成

〈東洋史専攻〉

梅尾 雅哉 インド史上における音楽

松永 大輔 ダライラマとチベット政治

三宅 秀章 ノモンハン事件とその後の影響

石母田浩登 曹操集団の構成について

出口健太郎 諸子百家における戦争観及び国
家観

岩堀 洋介 アラビアンナイトからみる中世
イスラム社会

大森 博貴 五代中原王朝の対外政策

小川 祐平 秦漢代の爵制について

織田 涼三 マレーシアにおける日本軍政に
ついて

楮畑 耕一 前漢前半期の官僚について

―高祖の官僚と文帝の官僚を比
較して―

金 範洙 広開土王碑をめぐる歴史問題の
論争について ―任那日本府論
を中心に―

金城 未来 『琉球王朝と明朝』について

工藤 崇紀 『三国志演義』と『三国志』

工藤やよい モスクの建築で見るイスラム

佐藤ひとみ 唐詩から見た唐代の女性像
紫芝 翼 唐代の節度使 ―特に河東節度
使について―

柴伐喜八郎 劉備の官僚集団について

砂川 萩野 琉球の交易

澄川 優子 イスラム成立以前にアラブで
信仰されていた神々について

田中 龍 イスラム世界における法につい
ての考察

辻 陸 孫文の革命運動と日本

中麻原聖美 西太后と清末の政局について

中村 真大 オスマン帝国の隆盛とトルコ文
化の成立

萩尾 美香 イスラムにおけるスーフイズム
と仏教の類似

平野 貴之 インドネシアのイスラム化

溝口 恵子 五代・宋における対西夏貿易

南迫 勝彦 アラビア医学 ―カリフを支え
た医師達―

宮園 達也 五代における前蜀、後蜀の興亡

保田あずみ 春秋時代の斉の外交政策

山下 隆 オランダ東インド会社の繁栄と
衰退と東インドにおける支配

山本あすか 中国における「鳥観」

渡辺 大輔 アヘン戦争 — 中華思想と資本主義の比較の観点から —

宮崎 敦子 古代マヤ文明と戦争

山崎瑠美子 メロヴィング朝期における聖ベネディクトゥス戒律の普及

研究 — 九州地方の須恵器・蓋坏の坏 —

〈西洋史専攻〉

小齊平智士 スバルタクス蜂起がローマ共和政にあたえた影響

山下 晴美 「キユーバ危機」におけるジョン・F・ケネディ

平田 美香 土偶の表情について
須恵器の編年に関する推計学的研究 — 九州地方の須恵器・蓋坏の蓋 —

穴田 裕介 ナポレオンとイタリヤ

吉田 健一 1960年代サンフランシスコのヒッピーコミュニケーション — プランクスターズの世界 —

松田 祐子 古代の装身具について

小川 光弘 レコンキスタの起源

青野 圭祐 甕棺墓の頭位について

宮本佐知子 縄文時代の装身具の研究

甲斐 卓 ウルバヌス二世とクレルモン教会会議

〈世界文化史専攻〉

草場 章徳 土偶の頭部と顔面部の研究と変遷

山口 慎司 装身具の研究

木川 穂高 ジャンヌ・ダルクと宗教裁判

小出 智子 須恵器の編年に関する推計学的研究 — 九州地方の須恵器 —

文化財学科

ム王国

特手恵久美 ドイツ宗教改革と農民戦争

佐野 広一 縄文時代の石器・狩猟具の研究

川村 修司 古墳時代における大和政権から見る関東の豪族の地位と役割 — 東国最大とされる毛野国の実態を中心と大和政権との関わりを考究する —

齋藤 晋 エンリケ航海王子と発見事業

篠木 大輔 弥生時代の集落の特徴と人々の生活の実態

土居 拓朗 四国八十八箇所と巡礼者

篠原 将幹 キケローとローマ共和制

鈴木あゆみ 須恵器の編年に関する推計学的研究 — 九州地方の須恵器・無蓋高坏 —

奥 大祐 ハワイアンシャツがもたらした文化交流と戦後復興について

高良まなび 1578年の政変とアムステルダム都市参事会

嶋本 航 骨角器の研究

安藤 修一 中世府内町遺跡

花田 未 ハンニバルと第二次ポエニ戦争

長野 真大 九州の弥生土器の編年

石川 将太 六郷満山寺院の研究・歴史とその信仰的背景

藤野 大棋 第一回十字軍と聖地回復

野中 愛 装飾古墳の研究

上野 健 宇佐宮と関わる周辺の遺跡

古川 晶子 ミケーネ社会と経済

濱田 有香 須恵器の編年に関する推計学的

三津 喬広 1924年アメリカ合衆国のドーズプラン

前隈 啓志 プトレマイオス王家とヘレニズム文化

長野 真大 九州の弥生土器の編年

石川 将太 六郷満山寺院の研究・歴史とその信仰的背景

三津 喬広 1924年アメリカ合衆国のドーズプラン

野中 愛 装飾古墳の研究

上野 健 宇佐宮と関わる周辺の遺跡

ム文化

長野 真大 九州の弥生土器の編年

石川 将太 六郷満山寺院の研究・歴史とその信仰的背景

三津 喬広 1924年アメリカ合衆国のドーズプラン

野中 愛 装飾古墳の研究

上野 健 宇佐宮と関わる周辺の遺跡

ドーズプラン

濱田 有香 須恵器の編年に関する推計学的

上野 健 宇佐宮と関わる周辺の遺跡

- 内田 昌憲 豊前北部における弥生時代の地域形成について
- 大野 大 なんば—なんばの存在—
弥生時代青銅器の自然科学的研究 —鉛同位体比を用いて—
- 岡 康教 大和政権と高知県のつながり
柳川の発展過程における地理的要因
- 松村 秀憲 中国地方の墳丘墓—特に中国地方西部を中心として
- 加藤 秀樹 可部古墳群の研究
- 川上 正大 細石刃文化期の地域性 —宇部台地出土の遺物を例として—
- 河本 翔伍 大野川上中流域における縄文時代晩期の遺跡と農耕論
- 岸田 裕一 西国東地方の古墳文化の成立と展開
- 工藤 裕也 土器の流入について
- 近藤勇一郎 大分県の磨崖仏の研究 —大野川流域を中心に—
- 後藤 克哉 弥生時代、熊本における外来系土器の流入について
- 後藤 慶史 大分県の磨崖仏の研究 —大野川流域を中心に—
- 斎藤 友大 太宰府政庁について —その調査と保護をめくって—
- 坂本亜矢子 貝塚から見た縄文時代の漁撈活動 —宇土半島基部を中心として—
- 定行 真志 大野川中下流域における遺跡の様相 —旧石器時代、縄文時代、弥生時代—
- 佐藤 哲也 先史時代における石器石材の利
用について —東九州地域を中心に—
- 財前 良香 六郷山両子寺についての研究
—国東半島の六郷満山の中山本寺である両子寺についてその歴史・考古学的研究をする—
- 重久 正人 大隈半島の古墳時代について
—志布志湾岸西部を中心として—
- 嶋末 岳 太田川流域の弥生集落の様相
- 白石 宏行 大分県下における石造文化財の保存と活用について —白杵磨崖仏造立の謎—
- 白川 一路 「焼町土器」について —「焼町土器」の時間・地理空間からの特徴と長門町大仁反遺跡の検証—
- 末安隆一郎 小迫辻原遺跡の研究
- 瑞慶覧秀治 首里金城町石畳道と町並み保存
- 返町かずみ 縄文時代から探る装身具について
- 田中丸響史朗 姫島産黒曜石の化学組成とそのバラツキについて
- 谷 尊祥 松山平野の後期古墳出土の鉄鏃について
- 千原健太郎 熊本の街づくりと近世細川氏の遺産
- 中本 佳秀 鉛同位体比データのまとめと公表
- 西園 浩陽 鹿児島県本土における古墳の様相
- 半田 章 福岡の埴輪—福岡、糸島、柏屋三平野における埴輪の導入と展開
- 比嘉 朗 沖繩における仏教の発展と成立
—琉球における都と地方村落の格差
- 平ノ内麻里子 糟屋の竪穴系横口式石室について —糟屋平野南部における所謂竪穴系横口式石室の展開について—
- 福島 寛啓 装飾古墳—装飾文様と古墳について 福岡・熊本を中心に—
- 福永 素久 城下町復原に関する研究—徳島県美馬郡脇町を事例に—
- 前畑 有希 神々の本地論 —インド発生の日本の神々の研究—
- 松ヶ野さゆり 北薩地方における地下式板石積石室の発生について
- 松本 宜晃 邪馬台国時代の九州の動き
- 真野 裕明 植物質素材の利用

- 南 由美子 熊本城の石垣の構造と保存について
- 宮崎 吐夢 佐賀平野における横穴式石室古墳の展開 — 肥後型及び畿内型石室の受容を中心に —
- 餅田 健 西九州の初期古墳
- 森原 聖 横穴式石室からみた広島県の古墳時代の様相
- 薬師寺 磨 大野川流域における縄文時代の洞穴遺跡について
- 薬師寺道子 天智・天武の兄弟関係と壬申の乱
- 山岡 正和 縄文時代の植物質食料
- 山口 芳成 島津氏の藩政と鹿児島町の並みの歴史
- 山下 浩樹 宮崎県内の横穴式石室についての考察
- 山下 美郷 三角縁神獸鏡に関する一考察
- 山下 稜 土器胎土の科学的手法による分析
- 脇 美佳 筑後川中流域における装飾古墳壁画の研究
- 渡邊 成穂 築山古墳出土赤色顔料の自然科学的的研究
- 井上 真悟 吉野ヶ里遺跡とその周辺と内部について
- 樗木 厚志 糸島地区における伊都国以前の遺跡研究
- 安部 貴弘 吉野ヶ里遺跡とその周辺と外部について
- 〈環境歴史学・民俗学専修〉
- 中村 勝 杵築の町並み保存事業とそれに伴うまちづくり
- 堀 大輔 中世野津におけるキリスト教導入と在地信仰の比較研究
- 吉田 治 鎌倉時代の相良氏と人吉荘
- 岩下 洋文 天福寺奥の院の塑像 天福寺奥ノ院の塑像からみる宇佐の仏教社会
- 小手川博士 国東半島の石塔美術 — 宝篋印塔 —
- 有川 直樹 鉄道関連の歴史的建造物・車両とその保存
- 石倉 太介 日本中世身売り社会史 — 環境歴史学の視点を踏まえて
- 伊藤 恵美 経塚と埋経思想に関する研究 — 北部九州と畿内との関連を中心に —
- 井上ゆかり インド建築と宗教の因果関係 — イスラム教を中心としたムガル建築を追い求めて —
- 今村 由美 『記・紀』神話からみる天皇制
- 植田 格包 桃太郎における民族信仰 — 桃太郎がもたらした思想と信仰 —
- 宇都宮幸子 漁撈具の今昔 — 大分県南豊後水道海域を中心に —
- 河野 透 種子島の伝統芸能について 西之表市の伝統芸能を中心に
- 河野 裕二 因島の囲碁を用いた町おこし
- 川淵 賢治 豊後におけるキリシタン新史料の紹介
- 北崎 雄介 中世村落の村の復原
- 木村都志枝 路傍の信仰とムラの境界 — 佐賀県有明町の民俗 —
- 久保 香織 源氏物語でみる恋愛文化論
- 窪田 美穂 日本の埴輪について
- 児玉亜希子 御伽草子に見る中世の感性
- 迫 健太郎 熊本市の中心性の変化について
- 佐藤 陽亮 祇園祭 — その歴史と文化・存在意義とこれからの発展 —
- 塩川真由美 鞍手町十一面観音立像について — 光背とその文様から制作年代を考察する —
- 篠原 光恵 国宝・薬師寺金堂薬師三尊像の制作年代について
- 城間 敦子 東大寺戒壇堂の四天王像について — その美しさと天平彫刻 —

- 高野 公孝 御崎馬考察と天然記念物指定経緯
 滝田 英子 縄文時代の低湿地遺跡について
 — 西日本地域を中心に —
 千々和莉紗 伊勢参詣曼荼羅の考察 — 伊勢参
 りとの関わり —
 津村 遼 密教の歴史と曼荼羅
 渡口 智子 沖縄の獅子の獅子文化 沖縄の獅
 子(シーサー)の伝来、屋根獅子ま
 での過程
 中村 裕也 観世音寺の歴史をその仏像から
 中脇 光 種子島の郷土芸能と今後のあり方
 二階堂 仰 若松の河童と現在の河童の姿
 野寄 慎也 誕生仏について
 野間 育美 鹿児島島の民家 — 民家と変化 —
 橋之口みはる イースター島の歴史 — モアイ
 の謎 —
 橋本 樹理 近代国家の成立と宗教政策の変容
 早川 徹 大分県における山・海・城下町
 の妖怪観の相違 — 臼杵藩に見
 る妖怪 —
 藤田 宜伸 愛媛みかんと地域性
 古道菜穂美 古典期マヤ文明にテオティワカ
 ンが及ぼした影響について —
 テオティワカンによるティカル
 支配は本当に起こったか —
- 松岡 優 玉垣からみえること 愛媛県岩城
 村岩城八幡神社
 松島 真弓 出雲国罫淵寺の成立と展開
 松村 崇史 瓜生島の存在と謎
 松本 和久 妖怪についての考察 — 豊後高
 田市都甲、及び周辺地域の闇と
 妖怪の思想 —
 水上 梯 イタリアの食文化 「トスカーナ」
 伝統食材と保護活動」
 宮崎 由加 中世人(ひと)の夢世界
 — 他界からのメッセージ —
 村上 清美 日本の菓子文化について
 — 日本人の間食 —
 森原 千晶 敵島神社の絵馬から見る絵馬の
 移り変わりと歴史
 森村 裕斗 刀鍛冶の技術と信仰の伝承 — 民
 衆のイメージ —
 森山奈津子 ポロヴドゥール
 山口 研史 捕鯨 — 捕鯨を通して日本人の
 鯨に対する意識をさがす —
 山崎 正勝 阿波藍 — 徳島県における藍産
 業 —
 鎗屋 智美 松永湾岸の伝統産業 — 近世
 入浜塩田の成立から下駄産業の
 発展まで —
- 吉岡木綿子 京都・蓮華王院本堂(三十三間
 堂)について
 吉田 健吾 「性信仰」 — 国東半島の性信仰
 とこれからの性の在りかた —
 吉田 勇章 ヒトと河童
 吉田 翼 ツタンカーメン王の黄金のマス
 クから見るエジプト美術工芸
 渡辺 和晃 新薬師寺十二神将像について
 井上 加奈 豊後磨崖仏の研究